

## 「原料生薬についての生産現場からの取り組み」

株式会社 ツムラ  
医薬営業本部  
流通戦略部 特販課  
野村 秀一

医療用漢方製剤の原料となります生薬は、天産品である植物、動物、鉱物由来のもので、その供給量のうち約80%を漢方発祥の地中国からの輸入に頼っているのが現状であります。

いくら天産物が原料といっても、生薬の採れた年、地域或いはロットによってその効果が安定しなくては医療用医薬品としては失格です。毎ロット毎ロット安定した効果を発揮できる製剤を安定供給していくためには、生薬の品質の安定はもちろん、安定した数量を安定価格で毎年確保していくことが必要不可欠です。そのために、原料生薬調達部門は、生薬の生産現場に行き、現地の事情を知り、栽培や加工調製選別などいろいろな技術指導をしたり、将来の生薬資源の安定確保のため、野生生薬の栽培化もすすめていかねばなりません。ひとつひとつの生薬について、一年で栽培できる生薬もありますが、一年では生産できない永年生のものも多くあり、栽培にしても加工調製技術の改善や品質向上についても年数をかけ、多くの人員を投入し、継続的に取り組む必要のある重要な作業が多くあります。

今回は耳鼻咽喉科等で使われております処方のうち『・根湯(中耳炎など)』・『小青竜湯(アレルギー性鼻炎など)』・『五苓散(めまいなど)』に配合されております下記の生薬を例に、それぞれ ①基原植物の限定 ②生産技術 ③産地の限定 をし、その品質を安定化させるため、また資源の安定確保のため ④野生生薬の栽培化 など、生産現場からどのような取り組みをしているか、産地の写真を見ていただきながらご紹介させていただきます。

### 【ご紹介させていただきます生薬】

桂皮・芍薬・沢瀉・麻黄・甘草・五味子

さらに、生薬や漢方製剤の安全性について、昨今全国的に患者様、先生方からのお問い合わせを多数いただいております生薬・製剤の ⑤残留農薬 の問題についてどのような取り組みをしてくれているかということもご紹介させていただきます。

「創薬」ということでは「漢方」は2000年ほど昔につくられた薬ですが、今ではその時代にはなかった様々な病気にまで応用されてきている古くて新しい薬であり、今後とも多くの患者様に安心して服用していただける漢方を、将来に渡って安定供給し続けていくために、メーカーとして、生薬の生産から安全性を含めた品質までいろいろな取り組みをしている様子をご紹介します。

今後とも宜しくお願い申し上げます。

## 略 歴

(氏名) 野村 秀一 (のむら しゅういち)  
出身 大阪府  
所属 ㈱ツムラ 医薬営業本部 流通戦略部 特販課

### (略 歴)

学 歴 1981年3月 神戸大学 農学部 卒業  
職 歴 1981年4月 ㈱津村順天堂入社 (現㈱ツムラ)  
資材部生薬課 (原料生薬調達部門)  
1997年4月～ 医薬営業本部 特薬部  
1997年7月 医薬営業本部 特薬部 大阪支店駐在  
2003年10月 医薬営業本部 特販部 西日本担当  
2007年4月 医薬営業本部 流通戦略部 特販課  
(西日本担当・大阪支店駐在)

### (現在までの職務内容)

1981年入社以来16年間、原料生薬の安定確保のため、日本、中国各地、インドネシアの生薬生産地をまわり、契約栽培農家への栽培技術・調製加工乾燥技術等の指導をし、より良い品質の生薬を安定数量・安定価格で確保する業務に携わっていました。また、色々な生薬の栽培試験・加工調製乾燥試験、野生生薬の栽培化試験から生産栽培の技術指導なども担当していました。

1997年からは刻み生薬の関西圏販売担当として活動するかたわら、16年間の生薬生産現場の経験を生かし、MRに対して生薬の教育、社外では医師・薬剤師の先生方や医科薬科大学の学生に生薬の品質のことや、栽培、現地事情など生薬に関する情報提供活動に携わっております。